

ALUMINIUM NEWS

アスカ工業株式会社アルミニウムニュース

第 621 号
2013 年 3 月 1 日
発行

アスカ工業株式会社
〒444-0303
西尾市中畑町卯新田上28

2013年アルミニウム缶需要 189.7億缶を予測

アルミ缶リサイクル協会（理事長・昭和アルミニウム缶株式会社相談役藤原孝雄氏）は2月19日、2013年のアルミニウム缶需要予測を発表した。

これによれば、本年は対前年比1パーセント減少して189.7億缶になる見通し。ビール系以外の飲料用需要が2012年は過去最高を記録するとみられるため、2013年はこの反動減が若干予測される。

発泡酒や新分野を含むビール系飲料用の落ち込み分を、ビール系以外の飲料用と韓国産を中心とした輸入ビール系飲料用が補ってきた構図は変わらない。

ビール系飲料用は前年比2%減の101億缶で、需要の減少傾向が続くと予測した。若者のビール離れと云っ

た嗜好の変化により、ビール系飲料用の需要は毎年徐々に減少している。また、缶化率は71.5%程度と横這いを見込んでいる。

ビール系以外の飲料用は前年比0.4%増の81.3億缶の見通し。低アルコール飲料に新製品の投入が続くと予測されている。

非アルコール飲料缶は横這いの59.1億缶の予想。過去8年のアルミニウム缶の需要は（億缶）次の通り。

・2004年	185.2	・2008年	184.3
・2005年	184.3	・2009年	182.4
・2006年	183.6	・2010年	185.6
・2007年	185.2	・2011年	188.0

日本の飲料用アルミニウム缶需要量（1～12月）

（単位：億缶、カッコ内は前年比%）

暦 年		2011年実績	2012年実績見込み	2013年予測	
向先別 A 国産缶 出荷量	ビール（発泡酒・新分野含む）	104.4（97.0）	102.9（99.0）	101.0（98.0）	
	ビール 以外の 飲料	その他のアルコール	21.0（105.0）	21.8（104.0）	22.2（102.0）
		非アルコール	56.9（105.0）	59.1（104.0）	59.1（100.0）
	ビール以外の飲料計		77.9（105.0）	80.9（104.0）	81.3（100.0）
	小 計		182.3（101.0）	183.8（101.0）	182.3（99.0）
	（うちボトル缶数量）		19.3（102.0）	20.7（107.0）	20.9（101.0）
B	空 缶 輸 入 量	0.5（100.0）	0.5（100.0）	0.5（100.0）	
C	実 缶 輸 入 量	5.8（135.0）	7.5（130.0）	7.5（100.0）	
D	実 缶 輸 出 量	0.6（100.0）	0.6（100.0）	0.6（100.0）	
E	国内需要量計（A+B+C-D）	188.0（101.0）	191.2（102.0）	189.7（99.0）	

中国、鉱物の輸出関税撤廃

円安で国内価格上昇

中国は鉱産物に上乘せしていた10～40パーセントの輸出関税を年初から撤廃した。アスカ・アルミニウムニュース本年1月号でレポートしたように、アルミニウム合金に添加される金属として大へん重要な金属シリコンとマグネシウムが含まれる。

金属シリコンは15パーセント、マグネシウムは10パーセントの輸出関税が付加されていたが、本年からの輸出関税が無くなると、日本向けの輸出価格にどう反映されるか注目されてきた。

ドル建て輸出価格は素直に関税分を下げるだろうとの希望的な見方もあったが、実際に本年に入っての提示価格はドル建てで3～5パーセントの下落にとどまる水準にある。

金属シリコンの場合、昨年末の2,220ドル/トンから本年の2,100ドル/トンと5.4パーセントの下落。マグネシウムの場合、今日2,900ドル/トンと昨年比べて3%安にとどまる。

他に、ガラス用化学品の原料の蛍石については15パーセントの輸出関税が付加されていて、関税がなくなっても矢張り5パーセントしか値下りしていないと伝えられる。

一方、円相場はドルに対して昨年12月の1ドル84円から94円へと12パーセント急落したため、円建て価格はすべて輸出関税が無くなっても数パーセントの値上りとなる結果となった。

輸出関税の撤廃については、輸出や国内需要の落込みで採算悪化した生産者の手取りの拡大を見込んだものとの見方もあるが、価格が下げ過ぎている理由にはつきりしない。

環境税など環境対策を目標にする生産規制が実施されるとの予測で、生産者が負担増を見込んで大幅に値下げをしないという見方もある。

従来の中国政府の政策目標は、これらの鉱産物はいづれも環境への負荷が高く、電力消費量が大きい事業で、これらから付加価値の高い加工業への転換を促進したい為、輸出関税を課していた。

2012年1月、世界貿易機関（WTO）にこの輸出関税は中国の輸出規制であると指摘されたことが中国政府が撤廃した理由とも考えられる。

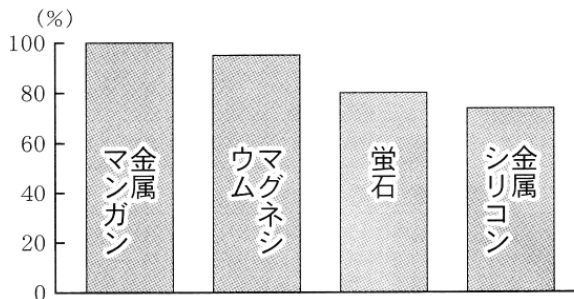
日本の需要家は、中国以外の調達先を開拓する熱意が非常に強く、金属シリコンはベトナムへ、マグネシウムはマレーシアへ、蛍石は南アフリカ共和国へ、金属マンガンはマレーシアへと新しい生産国が浮上しつつあり、中国側がこれらを牽制しようとの意図も読みとれる。

先年、レアアース（希土類）の輸出を中国政府が突然禁止した事件は、世界の消費者に対して中国の経済政策の信頼性に大きな不安を生じさせ、調達先の多様化が積極化した勢いは変わらない。

輸出関税が撤廃された

主な鉱物の

中国からの輸入割合



(注) 2012年1月～11月の貿易統計を基に作成

アルミニウム・スクラップ

輸出入通関実績

このほど財務省が公表したアルミニウム・スクラップの輸出入通関実績は右掲の通りである。

これによれば、輸入の減少傾向と輸出の激増の傾向が明確で、本年以降の推移が注目される。スクラップの品位、品質についての分類はされないので論評はできないが、1ヶ月間に1万トンを越す量の輸出は国内のアルミニウム合金の生産に影響を及ぼす可能性も考えられる。

輸出先は2012年について

韓国	25.3%
中国	60.5%
香港	10.2%

と3ヶ国で96%を占め、中国と香港を合計すれば70.6%を占める。

本年は昨年比べて大幅な円安となっていることが

ら、海外から日本のアルミニウム・スクラップは買い易い条件にあり、一段の輸出増加も考えられる。

エネルギーの価格上昇と併せ、原料の海外流出は日本のアルミニウム合金メーカーにとり今後目がはなせない。

アルミニウム・スクラップ通関実績

(単位：千トン)

	輸出	輸入
2011歴年	109.5	60.5
2012歴年	146.5	54.1
同期比	133.8	89.4

協会創立40周年 のご挨拶

アルミ缶リサイクル協会

理事長 藤原孝雄氏



アルミ缶リサイクル協会は2013年2月に協会設立40周年を迎えることになりました。発足当時のリサイクル率は17%程度でありましたが、官民あげての取組により、今日の高リサイクル率が達成できていることは、各主体が真摯に取組んできた賜物と感謝しております。

アルミ缶消費につきましては、少子化・アルコール離れ等にて大きな伸びは見込まれませんが、リサイクルについては、各層に浸透し循環型社会の形成に大きく貢献していると自負しております。

また、リデュースにつきましても、この40年で約4割ほどの軽量化が進んでおります。当協会といたし

ましては、本年40周年を新たなスタート点として、リデュース・リサイクル活動を強力に推進し、またCAN TO CAN率の向上を含め、循環型社会への貢献に努力していききたいと思います。

再度、アルミ缶の回収に係わる消費者・回収団体（ボランティア・町内会・学校など）・自治体・事業者の皆様のご協力に改めて深く敬意を表すとともに、厚くお礼を申し上げます。

最後となりましたが、皆様方のご健康とご発展を心から祈念しまして、協会設立40周年のご挨拶とさせていただきます。



三河湾の

しおひがり

西尾市の三河湾沿岸には8ヶ所の潮干狩り(しおひがり)スポットがあり、3月はベスト・シーズンに入る。特に吉良、幡豆地区の海岸線は遠浅で良質の「浅鯛(あさり)」の生育地として全国的に有名である。

写真は吉良海岸のしおひがり。お問い合わせは西尾市観光協会(電話 0563-65-2169番)。

社内情報

- ◎アルミ缶リサイクル協会設立40周年おめでとうございます。
- ◎アルミニウム飲料缶の普及とリサイクルに大きな成果が挙げられました。今後共一層のご指導をいただきますようお願いいたします。
- ◎予期せぬ大幅な円安と国際的な原油高の影響で、エネルギーに大きく依存する金属業界全体に危機感が広がっています。

編集後記

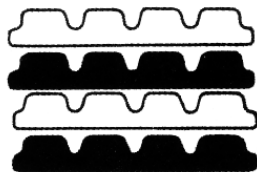
- T P P (環太平洋経済連携協定あるいは環太平洋パートナーシップ協定と呼ばれる)参加の話題で沸騰しています。
- 総理大臣の渡米により、日米間の問題のようにとらえられていますが、もともとチリ、ブルネイ、ペルー、ベトナムなど新興国もパートナーとして名を連ねている国際協定です。
- 原点にもどって考え直す必要があります。

アルミ缶リサイクリング
鋳造用アルミニウム合金地金

アルミニウムそのものでは強さ、加工性などの点で不十分で、銅、シリコン、マグネシウム、亜鉛、鉄、マンガン、ニッケル等用途に応じて添加合金しますと、非常に優れた強さ、鋳造し易さ、加工し易さ、耐熱性などが得られます。添加金属は非常に微量の場合もあり、そのため厳重な品質管理が要求されます。当社では発光分光分析装置を使用して、迅速・正確な品質管理の下で非常に優れたアルミニウム合金を作り、日本の産業の発展に寄与しています。

ISO 9001 審査登録

アスカ工業株式会社



〒444-0303

愛知県西尾市中畑町卯新田上28

TEL <0563> 77-0500(代)

FAX <0563> 77-0501

<http://www.al-asuka.jp/>